

令和3年度福井県水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

県全域で米を中心とした2年3作体系（米+大麦+大豆・そば）が定着しており、水田面積約36,000haのうち、主食用米が約23,300ha作付されている。主食用米を作付しない水田においては、麦が約4,700ha、大豆が約1,800ha（うち麦後約1,600ha）、そばが約3,100ha（うち麦後約2,600ha）作付されている。一方、農業産出額468億円のうち米が66%を占めており、米への偏重からの脱却が課題となっている。

本県の水田は区画整備済みの圃場が92%と全国に比べて高く、これをフル活用していくため、2年3作体系を維持しながら麦・大豆・そばの収量、品質の高位安定と、コスト削減を推進し、水田農業経営の安定を図る必要がある。米生産については、米の新品種「いちほまれ」等の主食用米と、加工用米や輸出用米等の非主食用米について、需要に応じた生産を継続していく。また、園芸の導入を拡大するなど、水田を最大限活用し、農業者の収益の増大を図る必要がある。

2 高収益作物の導入や転作作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

水田農業における麦・大豆・そばの収量、品質の安定生産に向け、湿害対策や、実需者の求める品質確保のための栽培技術の普及を進める。加えて、ICTを活用したスマート農業を推進し、生産コストの低減を目指す。

また、水田における大規模園芸として、機械化体系を導入しやすい品目を中心に生産を拡大していくとともに、広域集出荷貯蔵施設の整備により、出荷期間を拡大し販売していく。加えて、各地域においては伝統野菜や地域特産作物の生産を支援し、気候風土に応じた地域の特色ある農業の振興を図る。

農産物の付加価値向上にむけて、福井の食の魅力発信や、県外への販売拡大を通じブランド力を向上していくとともに、アジアを中心に輸出拡大を支援していく。また、食品工業等と連携した新たな6次産業化商品の開発など他産業と連携した新ビジネスの展開を支援する。

また圃場の集積に向けては、農地中間管理事業を活用した農地集積や、集落営農組織等の合併や広域化により40ha以上の農業法人の育成を進める。

こうした水田農業や園芸農業の人材を確保・育成するため、実践的な研修を実施していく。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

水田を最大限活用していくため、2年3作体系を維持しながら、転換作物等の生産コスト削減と付加価値の向上、高収益作物の導入を進める。また安定的な高収益作物の生産に向け、水田圃場の排水性改善を支援していく。

また、水田の有効利用に向け、県内の水田利用状況について点検を行うとともに、各地域とこれを共有する。また、畑地化を含めて適切な判断を農業者が行えるよう、各種の支援措置の推進に努める。

4 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

高品質・高食味米の生産にあわせ、実需者の多様なニーズ・需要に応じた米の生産を、農業者団体等と一体となって取り組む。

また、新品種「いちほまれ」については、種子の供給や栽培技術の普及拡大を図るとともに、これまでの販路に加え、首都圏を中心に更なる販路の拡大に取り組んでいく。

コシヒカリについては、夏の気温が高い時期の登熟を回避するための「五月半ばの適期田植え」や食味検査に基づく区分集荷により高食味化を図る。

さらに、生き物にやさしい栽培技術を導入し、特別栽培米などの「こだわり米」の生産を拡大するなど、高価格銘柄米産地としての評価の獲得を目指す。

(2) 備蓄米

麦や大豆等の生産が不向きな排水不良の水田での作付を推進し、需要に応じた生産を進める。

(3) 非主食用米

ア 飼料用米

麦や大豆等の生産が不向きな排水不良の水田での作付を推進する。特に、県内畜産農家の需要を満たすため、地域内での畜産農家と耕種農家のマッチングを基本に、需要に応じた生産を進めていく。また、より安定した生産、供給体制に向け、複数年契約による取組みを推進していく。

イ 米粉用米

麦や大豆等の生産が不向きな排水不良の水田での作付や多収品種による取組みを推進し、需要に応じた安定した生産を目指す。

ウ 新市場開拓用米

麦や大豆等の生産が不向きな排水不良の水田での作付を推進し、需要に応じた生産を進める。

エ WCS 用稲

県内畜産農家の需要を満たすため、地域内での畜産農家と耕種農家のマッチングを基本に、需要に応じた生産を進める。

オ 加工用米

麦や大豆等の生産が不向きな排水不良の水田での作付を推進する。特に、中山間地などの条件不利地域においては、加工用米等の作付を進め、調整水田等不作付地の解消を図る。

(4) 麦、大豆、飼料作物

県域で推進している2年3作体系（水稻＋麦＋大豆）を維持していく。

麦については、実需者ニーズに即した生産量と品質を確保するため、集落を基本とし

たブロックローテーションの基幹作物として、明渠と弾丸暗渠を組み合わせた施工により排水対策を進める。加えて、赤カビ防除についても徹底し、品質と収量向上を図る。

また、大豆については、「里のほほえみ」の作付面積の拡大および単収増を図る。併せて、有機物質やミネラル補給などによる土づくりを推進し、収量および品質の向上を図る。

飼料作物については、県内畜産農家の需要に応じ地域内での畜産農家と耕種農家のマッチングを基本に、需要に応じた生産を進める。

(5) そば、なたね

そばについては、麦+そばの周年作を推進し、麦跡のそばの作付けを拡大する。

夏そばについては、本県の新たな食文化としての定着を推進し、需要に応じた生産を拡大する。また、作期の異なる品種間での交雑防止の取組みを進め、そば産地としてのブランドの確立を図る。

(6) 高収益作物

野菜については産地交付金を活用し、ネギや麦後のキャベツなど作付体系の導入を進め、「集落園芸（集落営農組織による水田園芸）」を拡大する。

特に、ネギ、キャベツ、ブロッコリー、ニンジン、タマネギ、サトイモ、スイートコーン、レタス、カボチャ、ブドウを県重点推進品目とし、水田を活用した作付を推進するとともに、機械化体系導入等による安定生産を支援し、契約栽培による大規模園芸の取組みを拡大する。また、ミディトマト、キュウリ、トマト、一寸ソラマメ、ナス、エダマメ、ウメ、イチジク、スイセン、キク、花ハスの県一般推進品目や、河内赤かぶら、勝山水菜などの伝統野菜、新たに流通・販売拡大を目指す地域特産品目の作付を推進する。

併せて、園芸作物の排水対策を徹底し、収穫量の安定確保により農業者の収益の増大化に努める。

5 作物ごとの作付予定面積等

作物	前年度作付面積 (ha)	当年度の作付予定面積 (ha)	令和5年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	23,300	22,757	22,100
備蓄米	812	1,267	1,260
飼料用米	1,073	1,400	1,270
米粉用米	169	180	190
新市場開拓用米	279	190	400
WCS用稲	107	110	115
加工用米	443	225	500
麦	4,727	4,800	5,000
大豆	1,760	1,800	1,900
飼料作物	45	45	45
・子実用とうもろこし	0	0	0
そば	3,094	3,200	3,300
なたね	0	0	0
高収益作物	1,538	1,563	1,650
・野菜	1,140	1,160	1,230
・花き・花木	94	95	100
・果樹	290	292	300
・その他の高収益作物	14	16	20
その他	453	471	471
・地力増進作物	6	6	6
・景観形成作物	24	25	25
・その他作物	423	440	440
畑地化	0.2	0.3	1.0

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	目標値	
				前年度(実績)	目標値
1	ネギ、キャベツ、ブロッコリー、ニンジン、タマネギ、サトイモ、スイートコーン、レタス、カボチャ、ブドウ	重点品目支援	取組面積	(R2年度) 14ha	(R5年度) 25ha
2	ネギ、キャベツ、ブロッコリー、ニンジン、タマネギ、サトイモ、スイートコーン、レタス、カボチャ、ブドウ	安定生産支援	取組面積	(R2年度) 217ha	(R5年度) 240ha
3	ネギ、キャベツ、ブロッコリー、ニンジン、タマネギ、サトイモ、スイートコーン、レタス、カボ	生産拡大支援	取組面積	(R2年度) 217ha	(R5年度) 240ha

	チャ、ブドウ				
4	ネギ、キャベツ、ブロッコリー、ニンジン、タマネギ、サトイモ、スイートコーン、レタス、カボチャ、ブドウ	大規模生産拡大加算	拡大面積	(R2 年度) 41ha	(R5 年度) 55ha
5	別表 1 の作物	産地化支援	取組面積	(R2 年度) 211ha	(R5 年度) 240ha
6	別表 2 の作物	地域特産品目生産支援	取組面積	(R2 年度) 9ha	(R5 年度) 14ha
7	そば	夏そばの生産支援	交配防止対策面積	(R2 年度) 41ha	(R5 年度) 60ha
8	大豆、そば、飼料作物	二毛作助成 1	取組面積 麦後水田の利用率	(R2 年度) 4,200ha (R2 年度) 90%	(R5 年度) 4,260ha (R5 年度) 95%
9	麦、加工用米	二毛作助成 2	取組面積	(R2 年度) 125ha	(R5 年度) 140ha
10	わら専用稲、飼料用米、飼料作物、粗飼料作物等	耕畜連携助成	取組面積	(R2 年度) 117ha	(R5 年度) 130ha
11	大豆	大豆数量加算	取組面積 単収	(R2 年度) 1,596ha (R2 年度) 101kg/10a	(R5 年度) 1,900ha (R5 年度) 170kg/10a
12	そば	そばの作付支援 (基幹作)	取組面積	(R2 年度) 486ha	(R5 年度) 650ha
13	なたね	なたねの作付支援 (基幹作)	取組面積	(R2 年度) 0ha	(R5 年度) 5ha
14	新市場開拓用米	コメの新市場開拓支援	取組面積	(R2 年度) 272ha	(R5 年度) 300ha
15	麦	麦の安定生産支援	取組面積 赤カビ防除実施率	(R2 年度) 2,767ha (R2 年度) 58%	(R5 年度) 3,000ha (R5 年度) 63%
16	加工用米、輸出用米	加工用米、輸出用米の安定生産支援	取組面積	(R2 年度) 680ha	(R5 年度) 900ha
17	麦	麦の排水対策支援	取組面積 単収	(R2 年度) 4,309ha (R2 年度) 295kg/10a	(R5 年度) 4,400ha (R2 年度) 310kg/10a
18	飼料用米、米粉用米	飼料用米等の安定生産支援	<飼料用米> 複数年契約面積 作付面積 <米粉用米> 複数年契約面積 作付面積	<飼料用米> 1,034ha 1,072ha <米粉用米> 119ha 169ha	<飼料用米> 1060ha 1270ha <米粉用米> 135ha 190ha
19	ネギ、キャベツ、ブロッコリー、ニンジン、タマネギ、カボチャ、スイートコーン、サトイモ、レタス、別表 1 の作物 (ミディトマト、ウメ、イチジク、花ハスを除く)	水田園芸畑地化支援	取組面積	(R2 年度) 0ha	(R5 年度) 60ha
20	ネギ、キャベツ、ブロッコリー、ニンジン、タマネ	園芸排水促進助成	取組面積	(R2 年度) 0ha	(R5 年度) 20ha

	ギ、カボチャ、スイートコーン、サトイモ、レタス、別表1の作物（ミディトマト、ウメ、イチジク、花ハスを除く）、別表2の作物（カリン、クルミ、ナツメ、柿を除く）				
21	麦、大豆、そば、加工用米、飼料用米、米粉用米、新市場開拓用米、WCS用稲	高精度自動運転助成	取組面積	(R2年度) 0ha	(R5年度) 400ha